

中国四国紀伊半島 山行旅行報告 後半 (大台ヶ原・伯耆大山・ 石鎚山・四国剣山)

2010 年 11 月 2 日(火) - 10 日(水)
M4 只左一也

11 月 1 日：飛騨高山→(車)→吉野(仮眠)
11 月 2 日～5 日：台高山脈縦走
(大台ヶ原～高見山)
11 月 6 日：鳥取大山(伯耆大山)
11 月 7 日：移動
11 月 8 日：石鎚山
11 月 9 日～10 日：四国剣山系縦走
(天狗塚～三嶺～剣山)

石鎚山

11月8日(月)

シラサ峠避難小屋	06:00 発
(車)	
土小屋駐車場	06:30 着/発
石鎚山 (1982m)	09:00 着 09:20 発
土小屋駐車場	12:20 着
(車で瓶ヶ森を経由して徳島県剣山方面へ)	
(歩行時間：約 3 時間 30 分)	

月曜は天気が回復しそうなので、日曜の午後、尾道からしまなみハイウェイを経由して愛媛に入り、石鎚山を目指す。台高縦走疲れと膝の違和感が抜けないし、原始の台高山脈を味わって、縦走路を車道が何度も横切っているコースを重い荷物を背負って歩く気持もすっかり失せていたので、石鎚山は当

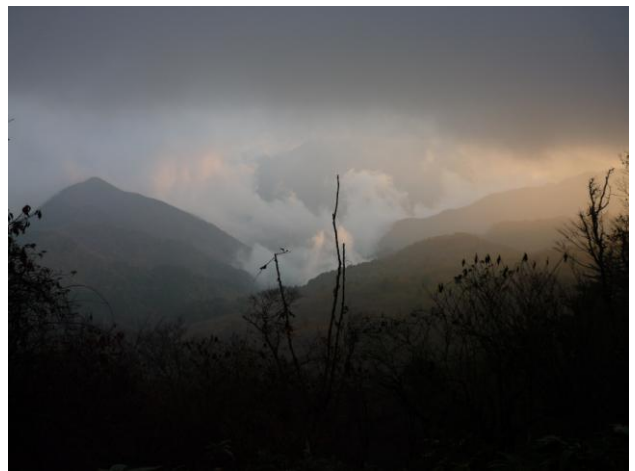
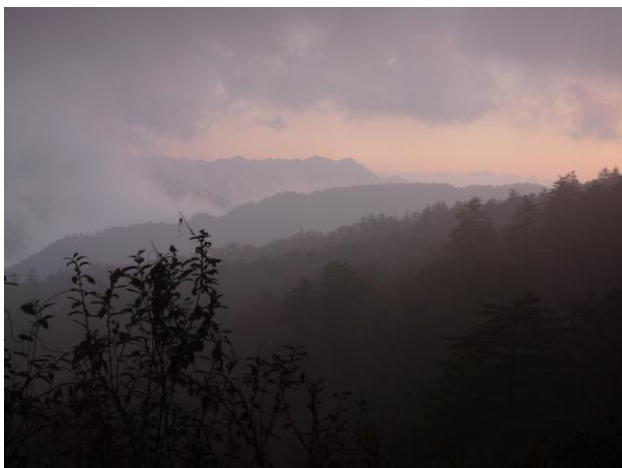
初計画していた土小屋(峠の名前。松山駅からここまでバスが来ている)という登山口まで車で入り、日帰りで登ることにした。石鎚山系を西から大きく回り込んで濃霧の石鎚ハイウェイを登って行くと、土小屋着いたときは真っ暗だった。さらに稜線を走っている林道を東へ少し進み、シラサ峠の避難小屋で1泊することにした。

早朝、ガスに覆われていたが、車で石鎚山登山口の土小屋まで戻り、支度をして出発。少しずつガスが消え、近くの山が見えるようになったがなかなかすっきりと晴れない。笹原と針葉樹のなだらかな稜線沿いの道を西へ進むが、直接尾根沿いに登る道(バリエーションルート)の分岐を見落とし、二の鎖小屋まで来てしまった。ここからは鎖場が連続するが、見たこともないような大きな鎖がつるしてある。岩場は切り立っていて、鎖に完全に頼らなければ登ることはできないほどである(もちろん、巻道もある)。鎖は足をかけられるように大きな輪がついている。垂直な壁をよじ登ると、立派な石鎚神社の立つ弥山山頂に出た。山頂に出ると、急に青空が広がり出した。最高地点の天狗岳(1982m)までは、稜線上を10分ほど東へ辿る。天狗岳山頂に着くと、雲に隠れていた周囲の山々が姿を現し、瓶ヶ森、笹ヶ峰、赤石山系と東へ続く長大な四国山地が雲海の上に浮かぶ景色は素晴らしい。山頂で展望を楽しみ、登りで使う予定だった稜線沿いのバリエーションルートを下る。マークがほとんどなく、道も藪に覆われているので慎重に下る。険しい石鎚山らしい景色を楽しみながら下り、土小屋～二の鎖の一般道に合流。あとはだらだらと下り、土小屋の駐車場に戻った。最初の計画では縦走予定だった尾根には登山道に並行して林道が走っており、車に乗って林道経由で瓶ヶ森の登山口へ行くと、たくさんの車が止まっていた。瓶ヶ森からは西面の笹原を前景とした石鎚山の眺めが素晴らしいと聞いていたので、車を降りて登ってみる。15分ほどで瓶ヶ森男山の山頂に着いてしまう。期待通り、西斜面の笹原と石鎚山の眺めは素晴らしい。写真を撮って駐車場に戻り、徳島の剣山へ向かうことにした。眺めのいい林道を東へ進み、吉野川沿いに高知県北部の山村を抜け、有名な大歩危小歩危から平家落人伝説で有名な祖谷

(いや)溪谷を遡る。ところどころ車同士のすれ違いに苦労するような国道439号線を剣山方面へ遡り、登山口の見ノ越の駐車場に持ってきた折りたたみ自転車をデポ、登ってきた国道を引き返す。1泊2日で西の天狗塚方面から東西に走る剣山系を東へ剣山まで縦走して、この自転車で国道を下って車を回収する予定だった。この晩は三嶺(みうね)登山口の駐車場に TENT を張った。



土小屋に車を置いて出発



二の鎖までなだらかな道が続く



二の鎖の取り付け



このような長い鎖場が続く



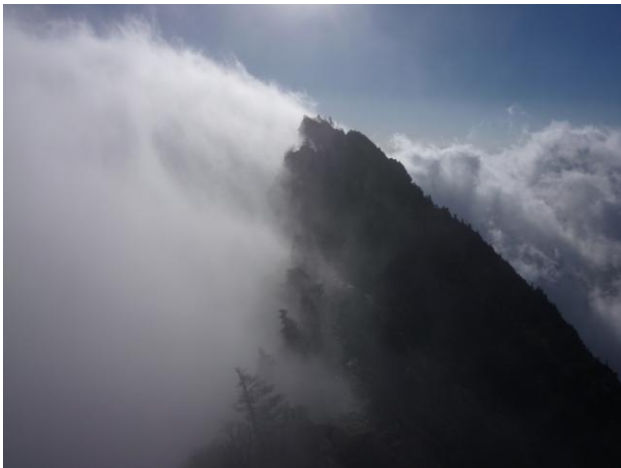
石鎚山山頂(1982m)



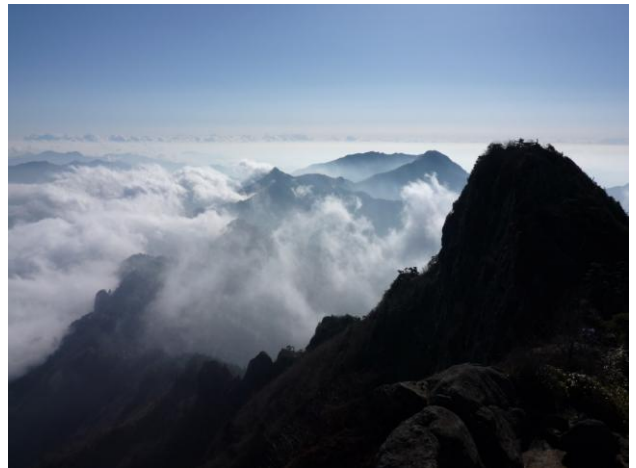
弥山の石鎚神社



石鎚神社を振り返る



石鎚山最高地点の天狗岳(弥山から)



南の眺め



東の眺め。左の山は瓶ヶ森。



西の眺め





石鎚山を振り返る



瓶ヶ森



石小屋に戻った



石小屋駐車場から石鎚山を眺める



稜線沿いを走る林道



瓶ヶ森から東を眺める。左の山は伊予富士。



瓶ヶ森



瓶ヶ森から眺める石鎚山





高知県の山奥を流れる吉野川の源流



平家落武者伝説の祖谷溪(徳島県西部)



剣山登山口に自転車をデポ

剣山系縦走

1 日目 (11月9日(火))

三嶺駐車場(名頃バス停) 06:23発
(バス)

久保バス停 06:55着/発

天狗塚(1812m) 10:55着/発

三嶺(1893m) 13:10着/発

避難小屋 13:20着(小屋泊)

(歩行時間：約 6 時間)

11月9日、駐車場前のバス停から始発の村営バスで天狗塚登山口まで移動。登山口から林道を2時間登り、登山道に入る。雲が多くどんよりとした天気である。樹林帯の急斜面を快調に登り、1時間半で笹原の美しい稜線に出た。縦走路は東へ向かうが、時間も早いので西に少し離れた天狗塚(1812m)を往復。高曇りで、三嶺(1893m)や剣山(1955m)までくっきりと見える。天狗塚から目的地の三嶺まではなだらかな稜線が続き、低い笹(ミヤマササ)とコメツツジに覆われ、牧歌的な景観が広がっている。南の方を見ると、太平洋(土佐湾)に陽の光が反射してきらきら輝いている。この日はゆったりした行程なので、のんびり歩いて、1時半に目的地の三嶺避難小屋に到着。私が車を停めている登山口から日帰りで登って来た人たちが数人休んでいた。夕焼けの剣山を期待したが、残念ながら雲に覆われてしまい見ることはできなかった。この日、30人以上は泊まれそうな広い避難小屋に泊まったのは私一人だけだった。





林道を2時間ほど歩く



天狗塚の登山口



稜線に出た



天狗塚(1812m)



三嶺(中央左)と剣山(中央右)



三嶺へ続くなだらかな稜線。ミヤマササとコメツツジが美しい。



三嶺の登り



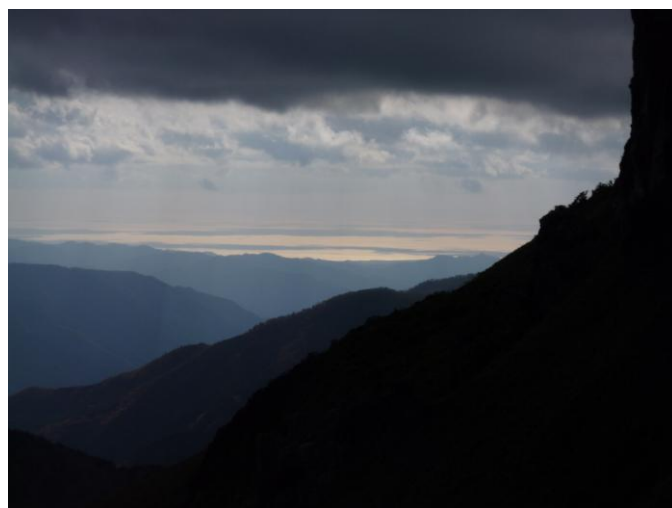
歩いて来た稜線を振り返る



小屋から眺める剣山(中央やや左)と次郎笈(中央やや右)



三嶺山頂



小屋からは土佐湾が見える



山頂から避難小屋(右端)まではなだらかな道が続く



広くてきれいな三嶺避難小屋

2日目 (11月10日(水))

三嶺避難小屋 06:20発

剣山(1955m) 12:30着/発

見ノ越駐車場 13:50着 14:00発

(自転車)

三嶺駐車場 14:25着

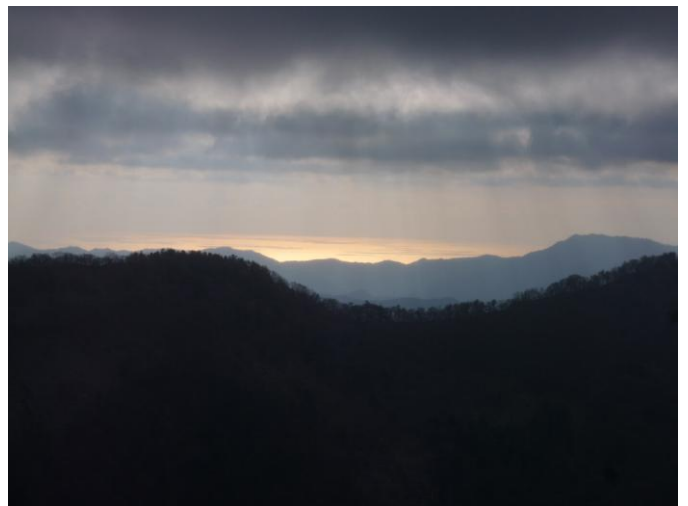
(車で東京へ)

(歩行時間：約 6 時間)

縦走2日目(11月10日(水))、日本列島に寒気が入り込むという予報の割には、朝6時の時点で気温は -4°C と、それほど寒くはなかった。しかし残念ながら周囲はガスに覆われ、期待していた三嶺山頂からの展望はまったく駄目だった。三嶺から東は前日とは違い、樹林帯の稜線を進む。次第に空が明るくなり、時折青空も覗くようになった。東の方に、太平洋が輝いている。剣山の山頂付近は雲がかかっていたが、次第に雲が消えて、霧氷に覆われた剣山とその隣の次郎笈(じろうぎゅう、1930m)の山頂が姿を現した。次郎笈に近づくと再び笹原となり、低灌木が霧氷で覆われ、大変美しい景色だった。アップダウンの少ないなだらかな稜線のため、楽に次郎笈の山頂に立つ。雲の間から日も差してきたが、先ほどまで雲に覆われていたのが幸いして、霧氷はまだ消えずにいたが、剣山に進むにつれて陽にあたって次第に溶けていった。木道に覆われた剣山山頂には12時半に到着。再び雲が広がって寒くなって来たので、すぐに自転車を置いてある見ノ越の駐車場まで下る。山頂からわずか30分のところまでリフトで登って来られるので、軽装の人が多い。1時間ほど下って見ノ越の駐車場に到着。車を置いてある三嶺登山口の駐車場まで自転車で林道を30分弱下り、車を回収。平日なので、淡路島で高速に乗った以外は下道を走り、休憩を取りながら木曾川沿いの国道19号、甲州街道の国道20号を經由。秋晴れで沿線の景色が素晴らしい。中央アルプスや南アルプスの稜線はすでに真っ白だった。11日夜、東京に戻った。



気温が下がり、朝はこの通り



光っているのは太平洋



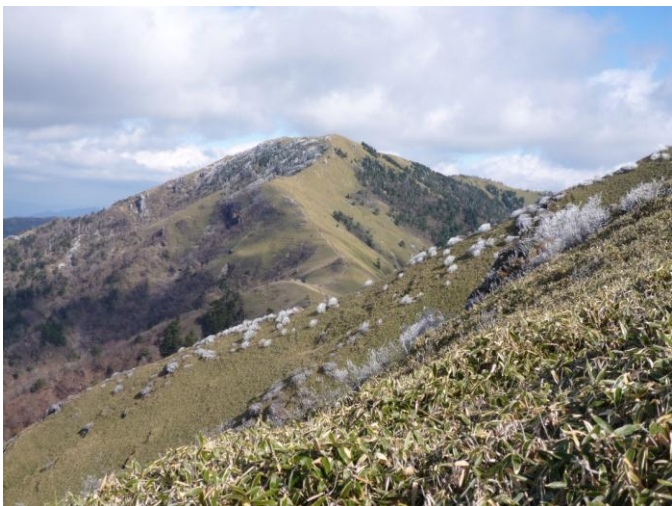
次郎笈山頂直下



次郎笈へ続く稜線



三嶺(中央)の方角の眺め



剣山。白いのは、霧氷をまとった灌木。



次郎笈から剣山まではなだらかな稜線が続く



剣山山頂付近から次郎笈を振り返る



剣山山頂



途中のリフト乗り場。リフトを使うと、わずか 30 分ほど歩いただけで日本百名山のひとつで、西日本第二の高峰、剣山の山頂立つことができる。



リフトはガラガラだった(私は歩いて下った)



林道から三嶺を眺める



見ノ越の登山口



車を停めていた三嶺登山口駐車場。車で2日かけて東京に戻った。



デポしておいた自転車に乗って、車を停めているところまで林道を下る